

令和 8 年度 第 1 回神戸市就学・教育支援委員会

議 事 要 旨

- 1 開催日時 令和 8 年 6 月 4 日（木）15 時 30 分～17 時
- 2 開催場所 神戸市総合教育センター701 号室
- 3 出席委員 石倉委員長、中尾委員、小林委員、上原委員、中西委員、関口委員、
西田委員、二宮委員

オブザーバー 米谷校長、前田校長、大西校長、伏見園長

4 議 事

「特別支援教育の充実」（資料 1）

【特別支援教育の充実】

●委員長

- ・特別支援学校の児童生徒数の伸びが令和 8 年度は鈍化している。鈍化した理由を正確に説明するのは難しいと思うが、例えば、地域の特別支援学級の受け入れ体制が進んだということも要因として考えられるが、何か推測されることはあるのか。

○事務局

- ・特別支援学級の児童生徒はここ最近非常に増え、今年度は昨年度より 272 名増えている。通級による指導を受けている児童生徒は、令和 8 年度から新たに 23 校、1 教室あたり 13 名が目安ということから、300 名程度の増加が見込まれる。特別支援学級と通級指導を合わせて 570 名程度の増加となり、地域の小・中学校で特別支援教育を受ける児童生徒がかなり増えている。施策として進めているように、インクルーシブ教育の方向に向かっていると考えるが、委員長がおっしゃられたとおり、鈍化した要因については、もう少し研究する必要があると考えている。

●委員長

- ・特別支援学級や通級指導教室への対応が進み、特別支援教育の推進につながっている。現場で適切な対応ができているのかは気になるころではあるが、受け入れの環境が整ってきているのはよいことだと思う。

●委員

- ・幼稚園の通級指導教室が増えている。モデル園では自園の子供だけが対象か、地域の子供も対象か。

○事務局

- ・モデル園については拠点校通級という位置づけではなく、幼稚園通級という位置づけで運営している。他園の園児も受け入れは可能で、対象は発達障害の幼児。

●委員

- ・幼稚園児は発達障害かどうかの判断が難しい。通級の利用は、だれが判断しているのか。

○事務局

- ・園長先生や他の通級担当者、近隣拠点校の担当者と意見を交わしながら、園内の支援委員会で判断している。

●委員長

- ・通級については、学年が上がっていくごとに利用者は減っていく傾向。幼稚園において、通級の判断をどうするかによって、受け入れ規模がどんどん増えていくのではということに不安を感じるが、取り組みは素晴らしいことだと思う。

●委員

- ・自校通級を増やすのはいいが、増やせば増やすだけ指導の専門性や内容の充実が必要となる。現状を市教育委員会がどう捉えているかはわからないが、現在の自校通級指導教室100校における指導の専門性をどう担保するのか。ICT教育ソフトの導入はいいが、導入したらICT教育ソフトへの依存度は高くなる。専門性を担保するために、研修をどう扱うのか。5年先、10年先どうやっていくのかという目的がないと、ICT教育ソフトは導入倒れになる。ICT教育ソフトの導入・活用による効果について、十分な検証をお願いしたい。

●委員長

- ・特別支援学級担任における特別支援学校教諭免許状の保有率はどの程度か。自立活動について理解が異なると、特別支援教育のスタートラインが異なる。次の指導要領の改訂では通級の扱いが変わってくる可能性もある。

○事務局

- ・免許保有率は把握できていない。免許法認定講習を進めている。

●委員長

- ・免許を持っているからよい指導ができるというわけではない。ただ自立活動のことをわかっているか、専門性の向上というところで出発点となるため、押さえておいてほしい。

●委員

- ・特別支援学校における児童生徒数の伸びが鈍化しており、令和7年から令和8年では13名の増加となっている。そのうち8名は知的障害の小・中学部の生徒ということだが、5名は肢体不自由の生徒ということか。

○事務局

- ・その通り。